

かわごえ

めぐり施設

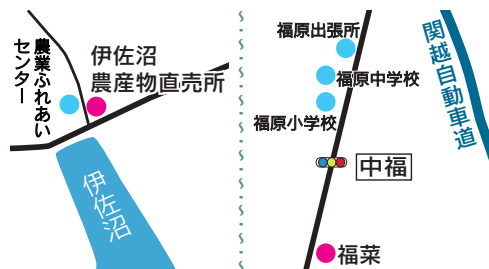
TEL 224-5939
農産物直売所(農政課)



伊佐沼農産物直売所



農産物直売所「福菜」



農産物直売所は、地元で収穫した、安全で新鮮な農産物を供給するため、福原、芳野地区の二か所に設置されています。「福菜」では、エコファーマー(環境に配慮した農業)の認定を受けた生産者たちが、収穫した野菜を販売。「伊佐沼」では、野菜のほか、地場産小麦で作った手打ちうどんや田舎まんじゅうなどの加工品も販売しています。

サトイモや大根などの冬野菜が旬を迎え、新鮮な野菜を届ける直売所は、これからもにぎわいそうです。

人権教育シリーズ

ともに生きる社会をめざして⑥

人権推進課・TEL 224-5579

このシリーズは、自立生活問題研究所所長・谷口明広(たぐちあきひろ)さんを招いて行った、人権問題講演会の要旨を人権推進課でまとめたものです。

私たちは、よく言っています。

生まれた土地で育ち、学校に通い卒業しても、その土地でずっと生活できるような地域が、ノーマルな地域であると思います。皆さんもそうでしょう。例えば、「交通事故で車いすになったから、この土地を離れてください」と言われたらつらいじゃないですか。「今の家は、車いすに乗っても住めませんか」と聞いたら、皆さんはどうでしょうか。ほとんどの方が、首を横に振られると思います。

けれども、車いすになっても、今の家に住みたいとおっしゃる方は、住宅改造をしなきゃいけない。そうしたら、住めるかもしれない。玄関の段差を削ったら、住めるかもしれない。家の中にエレベーターを付けてくれたら、住めるかもしれない。そうしたら、その費用は誰が出すんですか。重度障害者の住宅改造資金というものが、ちゃんと用意されています。

どんな状態になっても、どんな

身体になっても、どんなふうに変わっても、ずっと今の場所で住み続けられる。これが「ノーマライゼーション」です。「ノーマライゼーション」は、障害のある方だけのために、使われている言葉ではありません。「一般市民の方、お年寄りの方、子供たち、みんなが普通の生活を送れるようになるうね」という願いを込めた言葉です。

「障害のある人たちへの理解を深めてください」とよく言われます。しかし、どうやったら理解が深まるか。今日の私の講演会を聞いていただいたら深まるかというところ、なかなか深まらないですよ。あくまでも、一つのきっかけに過ぎません。

私は皆さんへ、三つの「あい」のお話をしておきたいと思えます。

(つづく)

知っておきたい 税金 のこと



問い…川越市の国民健康保険税額はどのようにして決まるのですか。

答え…被保険者の前年の所得と世帯の被保険者数によって決まります。

国民健康保険税は、医療保険分・後期高齢者支援金等分・介護保険分(40歳~64歳)からなり、これらの合計が税額です。それぞれ、被保険者の所得に基づく所得割額と人数により計算する均等割額があります。所得割額は、被保険者の前年所得金額から33万円を控除後、所得割税率を掛けて計算します。均等割額は、一人当たりの額に、世帯の被保険者の人数を掛けて計算します。世帯主が社会保険に加入していても、世帯内に国民健康保険の加入者がいれば、納税義務者は世帯主になります。

問い合わせ…国民健康保険課国保資格担当・TEL224-5836

短歌・俳句・川柳

中央公民館・TEL222-1394

川越市民憲章には、「文化の香りたかいまち」という言葉があります。そこで、市教育委員会と川越市文化団体連合会の共催で市民文化祭を開催し、市民の皆さんの芸術・文化活動を応援しています。

正月は、日本の伝統的な文化に触れることができる時期。ここでは、昨年開催された市民文化祭の、短歌・俳句・川柳大会で入選した作品の一部を紹介します。

短歌

角まがり又曲がりても影はなし炎天のもと歩むはひとり
林久子(小仙波町二丁目)

寒き夜も道に出て我を待ちていし母の齢になりしと思う
唐沢順子(川鶴三丁目)

ありし日は筵広げし濡縁を亡骸の母担がれ出づる
曾根田恵美子(山田)

軒下の江戸風鈴は揺れもせず雲ゆつくりと満月かくす
福田ふみ子(郭町一丁目)

薄物の母の和服が合ふ歳になれど知らざる母のその頃
小峯綾子(南台二丁目)

俳句

星月夜地球自転の音を聴く
中村潤子(霞ヶ関北三丁目)

バトンからバトンへ秋の日を弾く
加藤喜美子(伊勢原町五丁目)

手の内のジョーカー一枚星飛んで
高瀬チエ子(東田町)

秋天の真っ只中へ騎馬少女
横溝幸子(霞ヶ関東二丁目)

母の家失せこそすの浄土なる
橘木悦子(霞ヶ関東五丁目)

川柳

朗報へ千六本のいいリズム
中林和子(野田町一丁目)

居酒屋で会い病院でまた出会い
吉川純太(吉田新町二丁目)

レンタルで我慢をさせた晴れ姿
田中耕平(笠幡)

高層が聳えて隠す蔵の街
北川ふじ子(三久保町)

またお逢いしました宿の露天風呂
和田ふみの(松江町二丁目)



きれいに使おう みんなの地下道

新河岸駅南側の踏切。遮断機が下りると、線路の反対側の道路に向かうため、地下道を通る人が増えます。「とかく暗い、汚い」と思われがちな地下道は、通ることを敬遠しがち。ところが、この地下道は、節電のため昼間は一部の照明を消しているにもかかわらず、暗い感じがしません。壁の両側には、幅5m・高さ1mほどの、明るい色をたくさん使った絵が飾られています。急ぎ足の人、ちらっと視線を向けながら通り過ぎて行きます。

これらの絵は、市内中学校の生徒の皆さんが制作。同駅の地下道では、砂中学校の生徒が、昨年の夏に制作を始めた力作2点が、12月にお目見え。そのうちの1枚は、川越の昔懐かしい風景の中を、女の子が白いハトに乗り、羽ばたいていく様子をイメージしたもの。制作した生徒たちの、「壁画をたくさんの人に見てもらい、初めて訪れた人にも、川越の雰囲気や様子を知ってもらいたい」との気持ちが込められています。



(左の絵)『楽しい海の世界』
(右の絵)『パノラマ“川越”の世界』



名細中学校での制作風景

また、川越駅西口の地下道にも壁画が飾られています。ここでは、平成3年から壁画が飾られ、名細中学校の生徒の皆さんが52作品目となる絵を制作中。間もなく、新作がお目にかかれます。

「明るく楽しく通勤、通学できる地下道」、「遠回りしてでも通ってみたいくなるような地下道」。これからも気持ち良く使っていくために、心無いはずらなどで生徒の皆さんの心を無駄にしないよう、明るくきれいな地下道にしていきたいと思います。

問い合わせ…新河岸駅地下道＝道路環境整備課・TEL224-6029

川越駅西口地下道＝環境政策課・TEL224-5866